



上尾市立大石中学校 令和8年度

第1学年シラバス

SyllABus 2026



AGEO MUNICIPAL OHISHI JUNIOR HIGH SCHOOL

大石中学校では、生徒の皆さんが1年間を通して何を学び、どのように授業が進められ、どのように評価されるかを見通せるように、各教科ごとにシラバスが作成されています。

【 シラバスの項目 】

1 教科の目標

1年間で身に付けてほしい資質・能力を「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されています。

2 授業に関する注意事項

教科書や副教材、資料集等の「使用教材」、授業に必要な「持ち物」、「学習の進め方」が記載されています。

3 授業計画、評価の観点とその評価規準及び評価方法

- ・月ごと、学期ごとに学ぶ単元・内容が示されています。
- ・観点ごとの評価規準を示し、それがどのような方法で評価されるかが明示されています。

【 学習評価（成績の付け方） 】

■ 観点別学習状況評価の各観点

「知識・技能」

学習を通じた知識及び技能の習得状況について評価します。

「思考・判断・表現」

知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

「主体的に学習に取り組む態度」

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

■ 観点別学習状況の評価と評定

観点別学習状況		評定	
A○	「十分満足できる」状況と判断されるもののうち、特に高い程度のもの	5	「十分満足できる」状況と判断されるもののうち、特に高い程度のもの
A	「十分満足できる」状況と判断されるもの	4	「十分満足できる」状況と判断されるもの
B	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	3	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
C○	「努力を要する」状況と判断されるもの	2	「努力を要する」状況と判断されるもの
C	一層「努力を要する」状況と判断されるもの	1	一層「努力を要する」状況と判断されるもの

■ 観点別学習状況評価の組合せの代表例と評定の基準例 (A○=5点 A=4点 B=3点 C○=2点 C=1点とした場合)

組合せの代表例		合計点	評定
A○A○A○	(5点+5点+5点)	15点	5
A○A○A	(5点+5点+4点)	14点	
A○A○B	(5点+5点+3点)	13点	
A A A	(4点+4点+4点)	12点	4
A○B B	(5点+3点+3点)	11点	
A B B	(4点+3点+3点)	10点	
B B B	(3点+3点+3点)	9点	3
B B C○	(3点+3点+2点)	8点	
B C○C○	(3点+2点+2点)	7点	
C○C○C○	(2点+2点+2点)	6点	2
C○C○C	(2点+2点+1点)	5点	
C○C C	(2点+1点+1点)	4点	
C C C	(1点+1点+1点)	3点	1

※1・2年生の技術・家庭は、前期・後期制のため、1学期に評価を記載しません。

[参考資料]

中学校学習指導要領 平成29年3月告示 文部科学省

中学校学習指導要領解説 平成29年3月告示 文部科学省

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 令和2年3月 文部科学省 国立教育政策研究所教職課程研究センター

「学習評価の在り方ハンドブック」 令和2年6月 文部科学省 国立教育政策研究所教職課程研究センター

埼玉県中学校教育課程指導・評価資料 令和3年3月 埼玉県教育委員会

国語【第1学年】

1 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりする。	道筋立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにする。	言葉がもつ価値を認識するとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 「国語」1 (光村図書) ○副教材 「国語便覧」(浜島書店) 「たびたび漢字練習帳」(正進社) 「新しい文法ワーク」(明治図書) 「積み上げ 国語1」(明治図書)	持ち物等	○教科書・副教材 ○国語辞書(「小学国語辞典」は不可) ○国語P Pファイル(学校で購入) ○書初めの道具(各自で準備・12月に使用) ○赤ペン・蛍光ペン(2本)・ネームペン
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・単元に入る前に教材の意味調べを行う。(事前に意味調べプリントを配布する。) ・「たびたび漢字練習帳」は各自が進め、最終締め切り日までに合格をする。 ・授業中は既習事項を参考にしたり、本文の叙述をもとにしたりして、課題について自分で考える。 ・課題に対する自分の考えを友人との対話の中で、確認・修正を行う。 ・わからない点があれば授業中・授業後に質問を行い、確認する。 ・テスト前に実施される勉強会で不十分な部分を補う。 		

3 授業計画、評価の観点とその評価規準及び評価方法

月	学習活動	評価の観点・評価規準		評価方法
4	単元名	知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・休み明けテスト ・漢字小テスト ・文法小テスト
5	1 学びをひらく			
6	2 新しい視点で			
7	3 言葉に立ち止まる	思考・判断・表現	道筋立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものになっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・休み明けテスト ・聞き取りテスト ・発言・発表 ・授業中の作品 等 (作文・感想文 等)
9	4 心の動き			
10	5 道筋を立てて			
11	6 いにしへの心にふれる	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値を認識するとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・国語ファイル ・学習プリント ・授業中の取り組み
12	7 価値を見いだす			
1	8 自分を見つめる			
2	3 学びを深める			

社会【第1学年】

1 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会にみられる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 新編 新しい社会 地理（東京書籍） 新編 新しい社会 歴史（東京書籍） 中学校社会科地図（帝国書院） ○授業プリント（担当教員作成）	持ち物等	○教科書（地理・歴史は時期による） ○地図帳 ○ファイル（プリントをとじ込む） ○筆記用具 ○学習者用端末
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容の復習（口頭、小テスト、対話等） ・本時の学習課題の確認と予想（口頭、学習プリント等） ・教科書の音読 ・必要な知識・技能の獲得（授業プリント、学習者用端末、対話等） ・知識・技能を活用した思考・判断・表現力の育成（授業プリント、学習者用端末、対話等） 		

3 授業計画、評価の観点とその評価規準及び評価方法

月	学習活動	評価の観点・評価規準		評価方法		
4	【地理分野】 第1編 世界と日本の地域構成 ・第1章 世界の姿 ・第2章 日本の姿 第2編 世界のさまざまな地域 ・第1章 人々の生活と環境 ・第2章 世界の諸地域 (アジア州) (ヨーロッパ州) (アフリカ州) (北アメリカ州) (南アメリカ州) (オセアニア州)	知識・技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	・定期テスト ・小テスト ・授業における口頭発表等		
5			思考・判断・表現		社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	・定期テスト ・小テスト ・授業における口頭発表 ・学習者用端末による文章表現等
6		主体的に学習に取り組む態度		社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。	・各課題への取組 ・自主学習への取組 ・授業における発表 ・学力向上への取組等	
7				第1章 歴史へのとびら		
9		第2章 古代までの日本 (世界の古代文明等)				
10		第3章 中世の日本 (鎌倉時代～室町時代)				
11						
12						
1						
2						
3						

数学【第1学年】

1 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

2 授業に関する注意事項

使用教材	持ち物等
○教科書 ○ワーク	○筆記用具 ○ノート ○定規 ○三角定規 ○コンパス
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元終了後にまとめとして振り返りシートを記入し学力の定着を図ります。 ・ 定期テストの前に補習を実施します。 ・ 式、表、グラフなどの様々な表現様式を用いて、事象の変化の様子や特徴を捉え、思考力・判断力・表現力を育成します。 ・ 問題集やノートを定期的に評価し、学習習慣の定着を図ります。 ・ デジタル教科書を使用し、指導の工夫を図り、意欲を向上させます。 ・ 身近な課題を積極的に活用します。

3 授業計画、評価の観点とその評価規準及び評価方法

月	学習活動	評価の観点・評価規準	評価方法
4	1章 正の数・負の数	知識・技能	授業中の発表・取り組み ワーク・ノート テストの得点 小テストの得点 単元ごとの振り返りシート
5	・ 正の数・負の数の計算		
6	・ 正の数・負の数の利用		
6	2章 文字と式	思考・判断・表現	授業中の発表・取り組み ワーク・ノート テストの得点 小テストの得点 解き方の工夫 単元ごとの振り返りシート
7	・ 文字を使った式		
9	・ 文字式の計算		
7	・ 文字式の利用	主体的に学習に取り組む態度	授業中の発表・取り組み ワーク・ノート テストの得点 単元ごとの振り返りシート テスト直しレポート
9	3章 方程式		
10	・ 方程式		
10	・ 方程式の利用	知識・技能	授業中の発表・取り組み ワーク・ノート テストの得点 小テストの得点 単元ごとの振り返りシート
11	4章 変化と対応		
12	・ 関数		
11	・ 比例 ・ 反比例	思考・判断・表現	授業中の発表・取り組み ワーク・ノート テストの得点 小テストの得点 解き方の工夫 単元ごとの振り返りシート
12	・ 比例、反比例の利用		
1	5章 平面図形		
1	・ 移動と作図	主体的に学習に取り組む態度	授業中の発表・取り組み ワーク・ノート テストの得点 単元ごとの振り返りシート テスト直しレポート
2	・ 円とおうぎ形		
2	6章 空間図形		
3	・ 立体と空間図形	知識・技能	授業中の発表・取り組み ワーク・ノート テストの得点 単元ごとの振り返りシート
3	・ 立体の体積と表面積		
3	・ 空間図形の利用		
3	7章 データの活用	思考・判断・表現	授業中の発表・取り組み ワーク・ノート テストの得点 単元ごとの振り返りシート テスト直しレポート
3	・ ヒストグラムと相対度数		
3	・ データにもとづく確率		

理科【第1学年】

1 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 ○理科便覧 ○ワーク	持ち物等	○教科書 ○ワーク ○ノート ○クロームブック ○便覧 ○ファイル
学習の進め方	○観察・実験の仮説（予想）を立て、結果や記録などから筋道を立てて考察し、規則性を見い出したり、比較したりして、自分の考えをまとめたりする。 ○基礎・基本の確実な定着のために、小テスト、プリント、問題集等で演習問題を行う。		

3 授業計画、評価の観点とその評価規準及び評価方法

月	学習活動	評価の観点・評価規準		評価方法
4	・生物の観察と分類	知識・技能	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・実験の技能 ・レポート ・技能テスト ・定期テスト ・小テスト ・提出物
5	・植物の体の共通点と相違点			
6	・動物の体の共通点と相違点			
7	・さまざまな物質とその見分け方	思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	・レポート ・定期テスト ・小テスト ・提出物
9	・気体の性質			
10	・水溶液の性質			
11	・物質の状態変化 ・身近にある地形・地層・岩石を観察しよう	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	・学習への態度や姿勢 ・ポートフォリオ ・レポートやノートなどの提出物 ・小テスト ・振り返りシート ・提出物 等
12	・大地の歴史と地層 ・火山活動と火成岩 ・地震と大地の変化			
1	・大地の躍動と恵み ・光の性質			
2	・音の性質			
3	・力のはたらき			

音楽【第1学年】

1 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書（中学生の音楽1・器楽） ○合唱曲集 ○アルトリコーダー ○音楽のキャンパス	持ち物等	○教科書（中学生の音楽1・器楽） ○アルトリコーダー ○ファイル ○音楽のキャンパス ○合唱曲集
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容の復習 ・本時の学習内容と目標の確認 ・学習内容の理解、取組、練習 ・まとめ、振り返り 		

3 授業計画、評価の観点とその評価規準及び評価方法

月	学習活動	評価の観点・評価規準		評価方法
4	・校歌 ・合唱	知識・技能	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	・定期テスト ・実技テスト
5	・鑑賞「春—第一楽章—」			
6	・アルトリコーダー ・「浜辺の歌」「赤とんぼ」			
7		思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	・定期テスト ・ワークシート ・発表内容
9	・合唱コンクールに向けて ①学年合唱曲			
10	②クラス曲			
11	・合唱コンクール本番 ・鑑賞「魔王」	主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	・定期テスト ・授業中の取組 ・授業の振り返り
12				
1	・鑑賞「雅楽」 ・鑑賞「六段の調」			
2	・アルトリコーダー ・箏			
3				

美術【第1学年】

1 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書「美術1」（日本文教出版） ○資料集「美術資料」（秀学社）	持ち物等	○教科書 ○資料集 ○スケッチブック ○ファイル ○鉛筆、絵の具セット
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、色彩やデザイン技法の基礎を身に付けていきます。 自然の造形や美術作品などについて基礎的な見方を身に付けていきます。 豊かに発想し想像する能力や、意図に応じて創意工夫し、美しく表現する能力を育てていきます。 美術文化に関心をもち、良さや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てていきます。 作品などに対する思いや考えを説明し合い、見方や感じ方を広げていきます。 生徒作品の展示を積極的に行い、鑑賞活動を通して制作意欲を高め、他者理解を深めていきます。 		

3 授業計画、評価の観点とその評価規準及び評価方法

月	学習活動	評価の観点・評価規準	評価方法
4	・オリエンテーション	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 作品 授業中の取組 提出物
5	・心動かす情景【絵画表現】 ～主題を生み出すとは何か～		
6			
7	・夏休み課題：身近な風景を描く	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 作品 授業中の取組 コンセプトシート 提出物
9	・不思議大石妖怪図鑑【立体】 ～大石中に潜む妖怪を作ろう～		
10			
11		主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 作品 授業中の取組 提出物
12	・絵文字 ～絵文字に込める自分らしさ～		
1	・ポスターデザイン ～伝えよう！そのメッセージ～		
2			
3			

保健体育【第1学年】

1 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○ステップアップ中学体育（大修館書店） ○最新中学校保健体育（大修館書店）	持ち物等	○ステップアップ中学体育 ○ファイル ○ハチマキ ○筆記用具 ○保健の教科書 ○保健ノート
学習の進め方	≪基本的な授業の進め方≫ 整列、あいさつ→準備運動→感覚づくり運動→主運動→まとめ ※単元によって異なる場合もあります ≪活動場所≫ 体育館、校庭、武道場、プール		

3 授業計画、評価の観点とその評価規準及び評価方法

月	学習活動	評価の観点・評価規準		評価方法
4	○ガイダンス	知識・技能	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・技能テスト ・単元テスト
5	○体育理論			
6	○体づくり運動【体育祭】 ○陸上競技【短距離・リレー】 【走り幅跳び】			
7	○水泳【クロール、平泳ぎ】	思考・判断・表現	自己や仲間の議題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・学習カード
9	○ダンス 【現代的なリズムのダンス】			
10	○器械運動【マット運動】			
11	○球技【バスケットボール】 【ハンドボール】			
12	○武道【柔道 or 剣道】 ○球技【ソフトボール】	主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切に、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況（欠席、見学等） ・提出物 ・観察
1	○陸上競技【長距離走】			
2	○球技【サッカー】 【バレーボール】			
3	※保健は随時行います。			

技術・家庭〔技術分野〕【第1学年】

1 技術分野の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、施策等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 「技術・家庭〔技術分野〕」（開隆堂）	持ち物等	○教科書 ○ファイル ○筆記用具 ○クロームブック ○体育着・ジャージ（作業時）
学習の進め方	<p><授業スタイル> Web フォーム作成ツール〔Google フォーム〕を活用した小テスト（前時の復習、まとめプリント持込可）→ワークシートと授業支援クラウド〔スクールタクト〕を活用した学習内容の資料提示・説明・協働学習・作業等→まとめプリントの作成を基本サイクルとする。</p> <p><場 所> 教室を基本とするが、実習や作業時は木工室で行う。</p>		

3 授業計画、評価の観点とその評価規準及び評価方法

月	学習活動	評価の観点・評価規準		評価方法	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・生物を育てる技術 ・栽培の安全な進め方 ・生物を育てる技術の工夫 ・生物育成の計画 ・計画に沿った作物の栽培 ・動物や水産生物を育てる技術 ・社会の発展と生物育成の技術 ・学習のまとめ ・生活や社会と材料と加工の技術 ・材料の特性 ・問題解決の手順や工夫 	知識・技能	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境とのかかわりについて理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・観察 ・作品 ・レポート ・ワークシート 	
5			思考・判断・表現	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・観察 ・作品 ・レポート ・ワークシート
6				よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・レポート ・ワークシート ・まとめプリント
7	<ul style="list-style-type: none"> ・動物や水産生物を育てる技術 ・社会の発展と生物育成の技術 ・学習のまとめ ・生活や社会と材料と加工の技術 ・材料の特性 ・問題解決の手順や工夫 	主体的に学習に取り組む態度	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境とのかかわりについて理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・観察 ・作品 ・レポート ・ワークシート 	
8			生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・観察 ・作品 ・レポート ・ワークシート 	
9			よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・レポート ・ワークシート ・まとめプリント 	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の安全な進め方 ・設計の仕方 ・図や表の読み取り方 ・設計に沿った製作 ・社会の発展と材料と加工の技術 ・学習のまとめ 				

技術・家庭〔家庭分野〕【第1学年】

1 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。	自分と家族、家庭生活と地域との関りを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 ○ワーク	持ち物等	○筆記用具 ○ファイル ○裁縫道具	○教科書 ○ワーク ○ICT 端末
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の把握（自ら課題を発見する） ・説明（教科書やノートを使用し、使用方法やはたらきを理解する） ・取組（制作、グループ活動） ・まとめ（自己評価、学級評価を行う） 			

3 授業計画、評価の観点とその評価規準及び評価方法

月	学習活動	評価の観点・評価規準	評価方法
10	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科分野ガイダンス 家族・家庭生活 ・自分の成長と家族・家庭生活 	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・授業中の発表・取り組み ・実習技能 ・グループ活動 ・提出物
11	衣生活		
12	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を豊かにするものの製作 ・目的に応じた衣服の選択 ・日常着の手入れと保管 ・持続可能な衣生活 	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・授業中の発表・取り組み ・実習技能 ・グループ活動 ・提出物
1	住生活		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいのはたらきとこちよさ ・安全な住まいで安心な暮らし ・持続可能な住生活 		
3	<ul style="list-style-type: none"> 消費生活・環境 ・家庭生活と消費 ・購入・支払いと生活情報 ・消費者被害と消費者の自立 ・持続可能な社会 	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・授業中の発表・取り組み ・実習技能 ・グループ活動 ・提出物

外国語【第1学年】

1 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 Sunshine English Course 1 ○ノート（パーフェクトノート） ○My Treasure ○ワーク（ジョイフルワーク） ○振り返りシート ○ファイル（オレンジ）	持ち物等	○教科書 ○ノート ○ワーク ○ファイル
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ○新しくでてきた単語・連語は意味を調べ、あらかじめノートに記入しておく ○授業中の発音、発言は大きな声でしっかりとる。 ○授業で習った内容はワークや宿題を活用して、その日のうちに復習する。 ○定期試験までに、学習している文法項目を整理して、まとめておく。 ○定期試験の後は振り返りシートにしっかりと取り組み、間違えた箇所を復習する。 		

3 授業計画、評価の観点とその評価規準及び評価方法

月	学習活動	評価の観点・評価規準		評価方法
4	Get Ready 1-6 Program1 ・be 動詞・Where の疑問文	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンステスト（定期テスト、単語テスト等） ・ワークシート ・活動の様子
5	Program2 ・一般動詞 ・複数形 ・When の疑問文			
6	Program3 ・can ・What の疑問文			
7	Our Project1・あなたの知らない私 Program4 ・This[That]is～. ・He[She]is～. ・Who の疑問文	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・パフォーマンステスト ・プレゼンテーション ・作文、スライド作成等 ・ワークシート ・活動の様子
9	Program5 ・三人称・単数・現在			
10	Program6 ・代名詞 ・Why の疑問文, Because～.			
11	Program7 ・There is[are]～. ・How の疑問文	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・パフォーマンステスト ・振り返りカード ・レポート ・活動の様子
12	Our Project2・この人を知っていますか Program8 ・現在進行形			
1	Program9 ・一般動詞の過去形			
2	Program10 ・be 動詞の過去形 ・過去進行形			
3	Our Project3 ・私が選んだ1枚			